

## 確かな学力の育成

確かな学力とは、「基礎的・基本的な知識・技能」と「自ら学び、考え、表現する力(思考力・判断力・表現力等)」,そして「学ぶ意欲」までを兼ね備えた統合的な学力である。

その育成には、基礎的・基本的な知識・技能を身に付ける教育(習得),自ら学び自ら考える力を育成する教育を総合的に進めていく必要がある。特に、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させることを基本とし、知識・技能を活用する教育を充実するとともに、この知識や技能を活用する力を基礎として、課題を探究する活動を行うことで、自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力の育成を図る教育を推進する必要がある。その際、習得・活用・探究は、相互に関連し合いながら力を伸ばしていくものであることに留意したい。

また、この学習プロセスを改善する重要な視点が、言語活動(表現する)・体験活動の充実であり、それらの学習の基盤となるのが、子ども同士の「学び合い」の推進である。「学び合い」は、表現力、感性、人間性、社会性、協調性などを培いながら、質の高い学びをつくり出していく。そのためには、課題や学習展開の工夫、場の設定等により子どもの自主的・意欲的な取組を引き出す必要があり、それが「学ぶ意欲」につながるものである。

さらに、指導に生かす評価を充実させることによって授業改善を図るとともに、自己学習力の向上に向けた評価を工夫することにより、自ら学び、考え、表現する力を育成することが重要である。

### 〔確かな学力をめざす学習構造〕

確かな学力(基礎的・基本的な知識・技能と自ら学び自ら考える力, 学ぶ意欲)

